～夢は大きく「おかざき自然王国」～

観光農園を通じて、お客さんとの交流を大切にしたい

畔柳茂樹さん（岡崎市）
ブルーベリー

【平成21年６月10日掲載】

岡崎市は矢作川に沿った西三河南部に位置し、平坦部では水田作、施設園芸、果樹など、中山間地においては水稲、ジネンジョ、ソバ等の栽培や農産物加工・直売などが行われています。
山あいに囲まれた岡崎市桑谷町で畔柳茂樹さんは、観光農園「ブルーベリーファームおかざき」を平成２０年の夏に開園されました（写真1）。

写真1 畔柳茂樹さん

１　脱サラからファーマーへ

畔柳さんは自動車関連企業に２０年間勤務した後、平成１８年４月に就農されました。
就農した動機は、昔から母親が営む農地があり、農業には興味をもっていたことに加えて、組織に縛られたくない、もっと輝きたいという強い思いがあったからです。
観光農園としたのは、従来の「生産して出荷すれば終わりの農業」から、収穫体験を通じてお客さんの喜ぶ顔がみたかったからです。
当初、栽培品目の候補としてイチゴ、ブドウを考えていましたが、①需要見込みがある、②機能性食品である、③めずらしい、④夏休みに収穫体験ができるということでブルーベリーに決めたそうです（写真2）。

2　開園までの自己研鑽

畔柳さんは、脱サラしてから平成２０年に観光農園「ブルーベリファームおかざき」をオープンするまでの約２年間は、無我夢中で自己研鑽されました。

平成１８年４月から農大のニューファーマーズ研修を１年間、週２日受講しました。その合間をぬって、全国の先進地である観光農園（関東から九州まで）を２０～３０か所回り、直接、生産者と話をして技術の勉強をし、また失敗事例も聞き取りました。さらに大学で養液栽培も学びました。

3　栽培方法、経営規模について

先進地である観光農園の事例を聞き取った結果、ブルーベリー専用の養液によるポット栽培に決めたそうです。養液栽培は地植えに比べて３倍のスピードで成長するからです。現在、無農薬・減農薬栽培による規模は５０a、品種は３０種類で１，３００本のブルーベリーが見事に並んでいます。この地に向く品種の選定に２年を費やしました。

ブルーベリーの管理で大変なのは、収穫作業です。お客さんに取ってもらっているので、冬のせん定を除き手間はかかりません（写真3）。

労力は茂樹さん本人と母エツ子さん、シーズンの３か月間はアルバイトを近所の知り合いに頼んでいます。さらに来年の春までに正社員の雇用を考えています。

４　夢は「おかざき自然王国」をめざす。

畔柳さんから今後の取組を熱く語っていただきました。

「毎年１つ新しい取組を行うことをモットーに、オープン２年目の今年は大粒、超美味ハイブッシュの導入により昨年より１か月早い６月１３日にオープンする（写真4、5）。また、くらしの学校（カルチャーセンター）とタイアップして収穫体験とあわせてお菓子作り教室（ジャム、お菓子）を開催する。３年目は栽培面積を増やす計画で、５０aからさらに直売用２０a、４００本増設する計画。４年目は「ブルーベリースウィーツカフェ」のオープンを計画。５年目は自然体験ができる「自然休暇村」をオープンし、「おかざき自然王国」をめざす。」

畔柳さんの脱サラしてからの研修意欲、さらに栽培技術、将来計画に至るまでのバイタリティーには、ただただ脱帽です。

ブルーベリーファームおかざき
ＵＲＬ：http://blueberryokazaki.com

写真4 収穫体験の様子

写真5 人気の高いスイーツメニュー
ブルーベリーフローズン

執　筆：農業経営課
取材協力：西三河農林水産事務所 農業改良普及課

Copyright © 2009, Aichi Prefecture. All right reserved.